

このページは、小・中学生に向けて  
梅光学院大学子ども学部子ども  
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が  
作っています。

※イラスト 児島希美さん



▲藤原義江記念館は、海峡を望む小高い丘に建っています。  
見学(無料)には、予約が必要ですので、連絡してください。

# しものせき キッズページ

## 「下関出身のオペラ歌手・ 藤原義江」



藤原義江

### 藤原義江の オペラとの出会い



藤原義江は、1898年、下関で貿易商(ホーム・リンガー商会)を営んでいたスコットランド人ネール・ブロディ・リードと、琵琶芸者・坂田キクとの間に生まれましたが、父親に認知されず、戸籍を作る事ができませんでした。義江が7歳の時、現在の大分県杵築市の藤原徳三郎の養子となり、「藤原」という姓を得て、はじめて日本国籍を得ることとなりました。オペラとの出会いは、大阪。そこで開かれたイタリア人のオペラ活動に心を奪われた義江は、「歌は

愛だ」と、直感で感じたようです。その後、浅草の小さなオペラ一座「アサヒ歌劇団」に入団しました。1918年には根岸歌劇団(金龍館)の一員になり、浅草オペラ黄金期の頂点にあった金龍館の舞台に立ちました。

義江は音楽教育を受けておらず、楽譜も読めませんでした。日本人離れした外見であったため、一座の中でも実力があり、人気だった安藤文子に気に入られました。安藤の熱心な指導もあり、数々の舞台経験を積んだ義江の歌唱力は、急速に向上していきました。

### 海外での活躍

海外でオペラの勉強をしたいと強く思った義江は、当時、門司に住んでいた父親・リードを訪ね、イタリア行き資金援助をお願いしました。父親はともうれしかったらしく、快く資金援助してくれました。しかし、父親は義江のイタリア出発を待たずに急死してしまつたため、それが父親との最後の時となりました。

それから義江は、イタリア、イギリス、アメリカと世界各地で歌手としての経験を積み、人間とし

ての魅力も豊かになっていきました。帰国した後、義江はだんだん多くの人に知られる存在となつていきました。独唱会ではいつも決まつて荒城の月「出船の港」を歌い、この時代のアイドルとなつたのでした。

### 藤原義江記念館 藤原歌劇団



1982年、義江を記念して「藤原義江記念館」が創設されました。別称「紅葉館」とも呼ばれています。建物は国登録有形文化財の旧リンガー邸で、中では遺品や写真などが展示されています。

義江が1934年に創設した藤原歌劇団は現在も活動しています。2014年は藤原歌劇団創立80周年記念公演として、1月にロッシーニの「オレイ伯爵」初上演、6月に、藤原歌劇団が昔から公演を行ってきたプッチーニの「蝶々夫人」ラ・ボエーム」上演。

今年1月には、ベルデイの「フアルスタッフ」を新たに表現して公演するなど、高い水準のイタリア・オペラの上演を続けています。

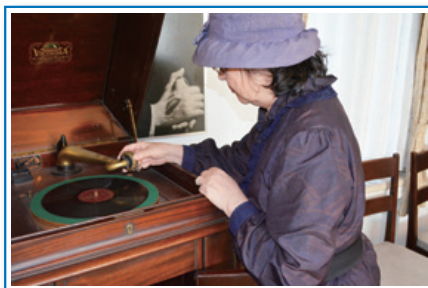
★藤原義江記念館(☎23414015)  
開館時間 午前10時〜11時30分、午後1時〜4時 / 阿弥陀寺町3番14号



11月号の編集記者(左から)  
水上真菜さん、高浪友作さん、  
二坂佑佳さん



▲館内の様子。義江の遺品や写真などがたくさん展示されています。



▲蓄音機。館内に流れる義江の美しい歌声を聴きにきませんか。